

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 にほんご空間・京都

1 事業の趣旨・目的

ボランティア日本語教室で活動する日本語教師に対し、基礎的な実践事項を体得し、実技的レベルアップを図る。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
6/5	岡本絹子 澤山里美 村井喜久美 杉本篤子	ワークショップの全体計画、各回の内容について	目的、業務内容、日程、講師等計画、事業費用等についての概要打ち合わせ
7/25	澤山里美 村井喜久美 西井ゆみ子 杉本篤子 辻祥代 真田聡美	ワークショップの手順と流れについて	ワークショップ内容、手順、模擬授業の時間配分、講習補助者の役割、全体のワークショップの流れを確認
9/25	杉本篤子 村井喜久美 澤山里美	8/22、9/13の反省と改善点について	2回の実施を経て、手順、テキスト内容、進行等の確認
10/23	杉本篤子 澤山里美 村井喜久美	9/27、10/10の反省と改善点について	2回の実施を経て、手順、テキスト内容、進行等の確認
12/25	岡本絹子 村井喜久美 澤山里美 杉本篤子	ワークショップの総括	目標の達成度、ニーズとの照合、アンケート、反省と次年度への改善点

【写真】

10月23日運営会議

(2010年1月4日に杉本のパソコンがクラッシュしたため、データが消滅してしまいました。小さなものしかなく、すみません。)



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 「ボランティア日本語教師のための実践・実習ワークショップ」
- ② 開催場所
「トレードマーク京都」（京都市中京区蛸薬師通新町西入る不動町 180）
8月22日、9月13日、9月27日、10月10日、10月24日
「(財)京都府国際センター」（京都市下京区烏丸通塩小路下ル京都駅ビル9階）
11月29日
- ③ 学習目標
基礎的な実践事項を体得し、実技的レベルアップを図る。
- ④ 使用した教材・リソース
オリジナルテキスト、「みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ」
- ⑤ 受講者の募集方法
・チラシの配布（「京都にほんご Rings」会員団体）
・チラシの掲示（(財)京都府国際センター、(財)京都市国際交流協会）
・メールでお知らせ（近畿二府四県の国際交流協会、ボランティア日本語教室等）
- ⑥ 受講者の総数 21 人（延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。）
- ⑦ 開催時間数(回数) 36 時間 (全6回)

ワークショップの具体的な内容

回	開催日時	時間数	参加人数	教授者・補助者人数	内容
①	8月22日 9:45～16:45	6時間	5人	教授者2人 補助者3人	て形の導入と動詞のグループ分けの説明 オリジナルテキスト
②	9月13日 9:45～16:45	6時間	6人	教授者2人 補助者3人	仮定条件「～たら」の導入 オリジナルテキスト
③	9月27日 9:45～16:45	6時間	4人	教授者2人 補助者3人	〔普通体〕んです オリジナルテキスト
④	10月10日 9:45～16:45	6時間	6人	教授者2人 補助者3人	自動詞と他動詞の説明 オリジナルテキスト
⑤	10月24日 9:45～16:45	6時間	6人	教授者2人 補助者4人	授受表現「あげる」「もらう」「くれる」 オリジナルテキスト
⑥	11月29日 9:45～16:45	6時間	9人	教授者2人 補助者4人	敬語 オリジナルテキスト

⑨ 特徴的な授業風景)

8月22日ワークショップ

テーマ：て形の導入と動詞のグループ分けの説明

受講者：5名

9：45－10：15 はじめに、自己紹介、今日のスケジュールの説明、アイスブレイク。

10：45－11：15 講習A「ボランティア日本語教師として」

講師村井よりボランティア日本語教師としての学習者との接し方、ニーズの図り方等、授業を行うにあたっての心構えや、必要最低限知っておくべき基本内容、1回の日本語レッスンの構成の仕方、注意点などを講義

11：15－12：00 講習B「て形の導入と動詞のグループ分けの説明」

具体的に「て形」を教えるための基礎知識と教え方の手順、注意点等について講義

13：00－16：00 受講者による模擬授業の実践、意見交換

受講者に約15分の模擬授業を実践してもらい、全員にチェックシートを記入。本人の感想と全員の感想、意見を交換し、チェックシートは模擬授業を行った受講者に持ち帰ってもらった。

11月29日ワークショップ

テーマ：敬語

受講者：9名 他に、模擬授業の受講者としてにほんご空間・京都の受講者3名(上級クラス)が学習者役として参加

9：45－10：15 はじめに、アイスブレイク

今日のスケジュールを説明。2名ずつでペアを作り、互いにインタビューシートを記入。

敬語を駆使して自己紹介を行うことでアイスブレイクを行う。

10：45－12:45 受講者による模擬授業の実践、意見交換

受講者に約 15 分の模擬授業を実践とチェックシートの記入。本人の感想、学習者役の 3 名、ならびに全員の感想や意見を交換、チェックシートの持ち帰り。

13:45-14:30 真田（講師補助者）より敬語のアクティビティの紹介、樋口（講師補助者）の模擬授業

14:30-16:00 敬語についての講習

講師澤山よりテキストの問いに答えてもらいながら講義を進める。敬語の基礎知識と分類、外国人が学習するに当たって特に難しい事項を解説、授業の注意点や具体的な工夫などを講義。



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿(11月29日)

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
秋山さん	ハングル語(韓国)	10年	1回	学習者役
酒井さん	ハングル語(韓国)	10年	1回	学習者役
平本さん	ハングル語(韓国)	10年	1回	学習者役

⑪ 支援者の名簿(⑧以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	WSでの役割
岡本 絹子	「京都にほんごRings」会員	京都外国語専門学校 非常勤講師 立命館大学大学院 言語教育情報研究科 研修生	2回	運営委員会アドバイザー

①当初の学習目標の達成状況

ボランティア日本語教師に基礎的な実践事項を体得してもらうこと、そして実技的レベルアップをしてもらうことを学習目標として、一般的に使われているテキスト『みんなの日本語』をベースに、学習者にとってポイントとなる課、教師にとってしっかり教えておかなければならない課を各回テーマとして設定し、一人ずつ模擬授業を行う実践実習を取り入れたワークショップにした。

アンケートにも、教えることの意味や授業の構成、事前の準備の重要性などを実感した、模擬授業の指導を実際の授業にフィードバックしていきたいとの回答が多く、当初の目標の達成はできたと考えられる。

②受講者の習得状況

受講者はほとんどが向上心旺盛で、学習意欲が強く感じられた。予め「テーマに沿った15分程度模擬授業をするので、教案を作ってくることを課題として出していたこともあり、工夫を凝らしている学習者も多く、具体的に取り入れられる事項が多くあったと好評だった。また、少人数で家庭的な雰囲気でのワークショップで、いろいろな質問にもきめ細かく指導した点が高く評価されている。

③ワークショップの効果、成果

前半は受講者のレベルや経験年数が予想以上にばらばらであることに戸惑ったが、次第に求められるものが明確になり、より具体的な練習方法や指示の仕方など、座学よりも実践が求められていること、日々の疑問や問題点を話し合える場が求められていることがわかった。

どの受講者も、上手に教えたい、わかりやすく教えたい、楽しく授業を続けたいという思いが強く、こうしたボランティアの意欲に応えていくことが「にほんご空間・京都」の社会的役割、社会的な貢献であると自覚することができたことがワークショップを行って感じる最も大きな成果である。また、ワークショップの開催をお知らせすることで、他府県の多くの団体にJ S Kの活動を知ってもらう機会となり、新しいつながりにもなった。今後の活動にもこうしたネットワークを大切にしていきたい。

④地域の関係者との連携による効果、成果等

当初計画段階では、「京都にほんごリングス」の会員団体を対象にWSを計画していたが、会員団体からの参加は少なかった。これは開催日が土日と他団体の活動日と重なったこと、時間が午前、午後にまたがった長時間であること、京都ではレベルの高い団体も多く、様々な講習が数多く開かれているためなどではないかと考えられる。「京都にほんごリングス」としても、こうした自主講座への協力参加を促すべきと、今後の課題として取り上げられている。

(財)京都府国際センターにも後援を依頼し、信頼関係が高まった。これからも広報の協力をいただけるとのこと。

広く近畿圏内の他府県からの参加があったことから、実習を中心としたワークショップのニーズは高く、中でも、学習の機会の少ない他府県の日本語教育ボランティアの技術アップに貢献できたといえる。

⑤改善点、今後の課題について(具体的に記述する)

	a. 現状	b. 改善点、今後の課題
日程・期間 時間	8月～11月 全6回 土曜日または日曜日 午前10時から午後4時の5時間	日本語教育活動と平行して取り組むためには、土日にならざるを得なかったが、一回のWSの時間を短くして回数を増やすほうが受講しやすいのではないか。
テーマ	「みんなの日本語」Ⅰ・Ⅱ初級から6つのテーマを設定	「みんなの日本語」だけでなく、短期的に教える団体、1対1のプライベートレッスンをする受講者も多いことから、他の教材や1対1に応用できる学習法なども取りあげていきたい。また、中級、上級、会話、漢字の教え方を求める声もあった。
アイスブレイク	緊張をほぐし、発言しやすくなった。お互いの交流も高めることができた。	アットホームな雰囲気にする効果が高かったので、今後もWSに取り入れたい。
WS内容	①「ボランティア日本語教師として」など、教える以前の基本的知識 ②「日本語の教え方」授業の構成 ③各テーマの基本的知識 ④「より分かりやすい教え方、楽しい授業」になるための授業法 ⑤学習者からの声	他の講習会でやっている①②③の知識面の講習会の時間は少なくし、④⑤の具体的な教え方の実習・実践、授業での工夫の情報交換等を中心としたワークショップにして行きたい。
実技	一人15分、テーマに沿った模擬授業を行う。また、事前に教案作成を課題とした	受講者の準備や能力に応じて実技の完成度の差はあるが、それぞれに応じて丁寧な指導をしていきたい。
レベル差	予想していた以上に学習者の経歴が	受講者の制限は設けたくないが、

	ばらばら（実習未経験者から13年以上の経験者まで。教授法を否定する団体もあった）	ある程度受講者のレベルを揃える必要がある。
広報の方法	経費の節約のため、主としてEメールで案内をした。各講座日の1ヶ月前に200件前後に送付した。件数をまとめて送って迷惑メールに入らないためには1件ずつメールを送信する必要がある。最終回はクチコミからも受講者が増加した。	他の講習会等の情報もあわせて、ブログなどの情報網を作ったりして、日常的な交流も試みたい。今回の受講者のクチコミも大切にしたい。
テキストの作成	毎回受講者のレベル、経験に合わせて改訂したため、予定以上に手間隙がかかった	ある程度受講者のレベルを揃えることで、改善できる。
模擬授業チェックシート	6分野23項目を具体的に評価し、項目の無い部分に関しては自由記入欄とともに記入し、受講者に発表してもらい、記入したチェックシートは模擬授業をした人に持ち帰ってもらった。	改めて受講者のレベルに合わせて項目内容をさらに良いものにしていきたい
外国人学習者の参加	最終回の1回のみ上級の学習者が3名、模擬授業の学習者役として参加してくれた。受講者からは学習者から具体的な感想が聞けたことについて、評価された	テーマにもよるが、学習者から直接評価される機会も少ないことから、今後もWSの際には取り入れていきたい。
経費	全体としての経費は大幅に変更することはなかったが、毎回、受講者のレベル、経験にきめ細かく対応し手授業構成やテキストの作成、校正を行ったため、運営委員会とテキスト作成費・校正費の変更となってしまった。	次回は、より精査した予算を組めるよう努力したい。
京都にほんごRingsの参加	参加が少なかった。例えば、参加したい団体にあわせた曜日での開催も考えてほしいという意見もあった。	検討のうえ、土日以外の開催日も考えたい。

c. 今後の活動予定、展望

今回、初めての取り組みであったが、ボランティア日本語教師の現状や、団体による教え方等の違いを改めて知ることができた。座学ではなく、直接実習・実践に対して指導してもらえるワークショップの開催は少ないため、もっとこのようなワークショップを定期的に行ってほしいという声も受講者からは多く聞かれた。ぜひ、今回の経験を生かし来年度は今回の受講者にニーズの聞き取り等を行い、より実践に役立つワークショップを開催したいと思う。

⑥その他の参考資料

- ・テキスト
- ・模擬授業チェックシート
- ・アンケート結果